

2月6日(火)

独特な方

聖書朗読 マルコの福音書 1:1~8

そこでユダヤ全国の人々とエルサレムの全住民が彼のところへ行き、自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けた。 マルコ1:5

バプテスマのヨハネは独特な人でした。彼は最も恐れ多い役目を仰せつかりました。イエス様がいらっしゃる前の道備えをする役目です。ヨハネは、ユダヤ人が二千年も待ち望んだことを成就するための準備に来たのです。また、ヨハネは、もうイエス様が来るはずがないという者たちをも導くためにも来たのです。ヨハネはあらゆる面で人とは違っていたのです。自分がそれを言えば殺されるとわかっていても、真実を大胆に話せる人でした(マタイ14:1~12)。また彼は風変りな生活をしていました。彼が食べていた物、着ている物も変わっていました(マタイ3:4)。ヨハネは、非常に大胆に人々にみことばを宣べ伝え、「ユダヤ全国の人々とエルサレムの全住民が彼のところへ行き、...、彼からバプテスマを受けた」(マルコ1:5)。そして、ヨハネは大胆なことを人の目を気にせずに話すことができましたが、それと同時に非常に謙遜な人でした(ヨハネ3:30、マルコ1:7)。

私たちもまた、主から特別な存在として召されています。私たちはイエス様の再臨のための準備をするように招かれました。新約聖書の時代に多くの人々は自分たちが生きている間はイエス様の再臨はないと思っていました(Ⅱペテロ3:3~4)。私たちクリスチャンは、真実の一つではないというこの世の文化に反して、一つの真実を伝えます。みことばを伝えるということは、ある意味人々から無視されることもあります。私たちの目的は、いかに分かりやすくイエス様を人々に紹介することです(コリントⅡ 5:20)。そのためには、私たちも周りの方々がどうやったら本物のイエス様を知ることができるかよく吟味して、伝える相手の立場に立って、主の御前でへりくだり、人々に主を伝えなければなりません(ヤコブ4:10)。

讚美歌 304

祈り お父様、宣教する私たちを祝福して下さい。あなたが愛して下さったように私たちも愛することができますように。イエス様の名により。アーメン。

テネシー州 スプリングヒル / デイル・ジェンキンス

2月7日(水)

イエス様の一日

聖書朗読 マルコの福音書 1:21~35

夕方になった。日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた人をみな、イエスのもとに連れて来た。こうして町中の人々が戸口に集まって来た。イエスは、さまざまな病気にかかっている人々をいやし、また多くの悪霊を追い出された。...

マルコ 1:32~34

私たちの救い主は、私たちのことを分かって下さいます。イエス様も空腹を覚え、渇きを経験されました。またある時は、怒りを露(あら)わにされました。また試みにも会われました。また、イエス様の生涯は大変なことの連続でした。今日の聖書箇所は、イエス様が会堂で教えられた所から始まっています。その後、ある人を癒されました。それから、シモン・ペテロのしゅうとめを癒されました。その晩、イエス様は休む暇がありませんでした。まず、ペテロの家でさまざまな病気にかかっている人々をいやし、多くの悪霊を追い出されました。

時々、職場で上司は私たちに無理難題な目標を達成するようにと言っているのではと思うことはありませんか。イエス様は、一日の終わりに大変な仕事を終えた疲れ切った私たちの気持ちをご存知でしょうか。勿論です!イエス様は全て分かって下さっています。聖書箇所に戻りますが、次の日、イエス様は朝早いうちに、寂しい所へ出て行き祈りました。イエス様は、その日、また忙しい一日を迎えるにあって、お父様であるお方との時間を持つことが必要でした。

私たちが、子育て中だとしても、出張先だとしても、学生だとしても、新しい一日を迎えるにあたって、イエス様がなさったように、まず、神様との時を持って一日をスタートしましょう。その時間を作ることは簡単ではありませんが、とても大切なことです。日々の生活で是非そのことを覚えておきましょう。

讚美歌 313

祈り 主よ、私たちはいつもあなたが必要です。どうぞ私たちを強めて下さい。あなたが導いて下さいますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ユーリス / ブライアン・ヒューメック

2月8日(木)

人となられたイエス様

聖書朗読 マルコの福音書 6:35~38

すると、イエスは彼らに言われた。「パンはどれくらいありますか。言って見て来なさい。」彼らは確かめて言った。「五つです。それと魚が二匹です。」

マルコ 6:38

好奇心が私たちの生活を動かしていると言っても過言ではありません。「お昼は何にしよう?」もちょっとした好奇心の表れです。「人生の意味とは?」は深く考えさせられる質問です。イエス様が好奇心をもって細かく質問される箇所はマルコによって意識的に記されたものです。それは、イエス様が人間であることを私たちに思い起こさせるためです。

例えば、ある時、イエス様は五千人のお腹を一杯にしました。その五千人の他に女性や子どもも加わっていましたから、おびたしい数の人々に食事を提供したのです。そこでイエス様は弟子に聞きました。「パンはどれくらいありますか。」なぜ、イエス様はこのような質問をされたのでしょうか。弟子たちをびっくりさせたいからですか。もしそうだとしたら、弟子たちを群衆のところに行かせて、五つのパンと二匹の魚を持ってこさせたのではないのでしょうか。マルコは、イエス様が神であると同時に人間であることを知らせることがとても重要だと思ったのでこのような質問を記したのではないのでしょうか。

イエス様は、人間の身体と心をもったお方でした。イエス様に非人間的なところは一つありませんでした。イエス様は、弟子たちや人々の気持ちがお分かりになるお方でした。人々に良く思われたいとか、驚かせたいという思いは全くありませんでした。様々な奇跡を行なったのは、お父様に直接栄光をお示しになるためでした。まさにイエス様は神であると同時に人であるお方でした。

讚美歌 520

祈り 天のお父様、あなたのうちにある平安を感謝します。絶え間なく人生の無常面に直面する時、他の人のために、勇気をもって無私の心で行動することができるよう強めてください。イエス様の御名により。アーメン。

テネシー州 ヘンダーソンヴィル / ビル・タイナー

2月9日(金)

神様は私たちの叫びに答えてくださる

聖書朗読 マルコの福音書 10:46~52

彼らが叫ぶと、主は聞いてくださる。そして、彼らをそのすべての苦しみから救い出される。
詩篇 34:17

目の見えない物乞いバルテマイが、イエス様がいらしたと聞いて叫び始めた時、多くの人たちが彼を黙らせようとたしなめました。でも、目が見えるようになりたいという願いが切実だったので、彼は大ぜいの人の注意に従いませんでした。イエス様は彼の叫びに応えて、呼び寄せ、「わたしに何をしてほしいのか。」と訊かれました。

神様は、私たちが求める前に、私たちの必要を知っておられますが(マタイ 6:32)、私たちに求めなさいと言われます。(マタイ 7:7~13)バルテマイの叫びは、イエス様を信じる信仰から発せられたことも私たちは学びます。(マルコ 10:51)

神様はいつも、ご自身の子どもたちの祈りに答えてくださいます。神様の答えは、私たちの願いに対する“イエス”であるかもしれないし、“ノー”であるかもしれないし、もしかしたら“ちょっと待ちなさい”かもしれません。電子レンジでチンしてすぐ食べられる食品のように、瞬間的な成果を求める時代に生きている私たちは、祈りに対しても瞬間的な答えを期待してしまうようです。神様がそのようにおできになるから、そのようにして来られたからといって、いつもそのように働かれるとは限りません。神様は最善をご存じて、私たちには分からない長期のご計画をお持ちです。あわれみ深い神様を信じて、神様の答えを待ちましょう。神様には御力があり、ちょうど良い時に働いてくださることを知っているのですから。ルカ18章のしつこいやもめを覚えていますか。彼女は諦めませんでした。

あなたの必要とするものをイエス様に告げ、イエス様が聞いてくださり、答えてくださると信じましょう。静かに待ちましょう。

“私は神を信じる。だから、祈る。祈りには力がある。神が働かれるのだから。”

チャールズ・ホッジ(*訳注) *訳注:アメリカのカルヴァン神学者(1797-1878)

讚美歌 II 57

祈り お父様、あなたの答えを信じて、常に信仰を持って祈ることができましますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 ヘンダーソンヴィル / セラーズ S・クレイン JR.

2月10日(土)

約束の地に生きる

聖書朗読 マルコの福音書 12:28~30

聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

申命記 6:4~5

「すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか。」という律法学者の質問にお答えになる時、イエス様はためらったり、すべての命令が大切ですとかおっしゃいませんでした。モーセが申命記6:4~5で言ったことが『一番たいせつ』だと、はっきりおっしゃいました。(マルコ12:29)

この命令は、イスラエルの民にとって意味があったのと同様、私たちにも意味があります。この命令によって、私たちは、自我・地位・快樂・富・楽しみ、その他あらゆる私たちが誘惑されやすいもの、偶像になり得るものを押しのけることができます。この命令は、人生は神様の御手のうちにあり、他にはあり得ないことを覚えさせてくれます。私たちの神様は、個人主義やマスコミや科学技術などという狭い分野でのみ支配するといった小規模な神ではありません。パウロが、アテネ地方の偶像神に支配されて生きていた人たちに言ったように、ヤハウエの神様は、私たちがその『中に行き、動き、また存在している』(使徒17:28)神様です。神様は見えるものの一部ではなく、見えるものすべてが神様なのです。

あなたが、このような計り知れない素晴らしい神様と関係を持つならば、あなたはイスラエルの民と同じように、約束の地に住むことができます。あなたの信ずる神様がそれほどではないのなら、あなたはたぶん、まだ荒野でさまよっているのかもしれませんが。最近、あなたはどこに住んでいますか。

讚美歌 II 173

祈り お父様、私たちの思いと目的をあなたと同じくして、あなたのために生き、あなたにご栄光を帰すことができますように。日々、あなたに近づいて生きられるように。主にあつて。アーメン。

アラバマ州 オペライカ / ブルース・グリーン

2月11日(日)

危険な障壁を乗り越える

聖書朗読 ルカの福音書 7:36~50

「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも、最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』

マタイ 25:40

私が姉妹たちの集まりでお話し終わるとすぐに、姉妹方が列をなして、私に挨拶にいらっやいました。比較的暑い日で、顔に汗が滴り落ち出しました。ある親切な姉妹がそばに来て、タオルで額や頬の汗を拭ってくださいました。恥ずかしながら、彼女の親切が本当にありがたかったです。

マリヤが石膏(せっこう)のつぼを割るには、いくつかの障壁を乗り越えなければなりません。当然、感じるであろう恐怖に打ち勝つだけではなく、文化的障害にも立ち向かわなければなりません。現に、その場にいた人たちは、女がそんな風にイエス様に近づくのを見て、いやな顔をしました。彼女は“罪人”であったので、屈辱を受ける可能性がありました。当時の習わしでは、人前で髪を解くのは恥ずべきことでした。また、他の人々の前で泣くのは堪(こら)えるというのは重要だったでしょう。イエス様に近寄っても、イエス様に断られてしまう恐れもありました。彼女は財政的な犠牲を払って、非常に高価な香油の入った壺を割りました。そうです、彼女は多く愛しました。

あなたが良い行いをするのに、どんな障壁がありますか。一緒に行ってくれる人が必要ですか。新しいスキルを得る必要がありますか。あなたが恐れていることをどう克服したらよいかを、友だちと話し合ってください。いざ良い行いをやり始めたら、そもそも何で心配したのかと思うかもしれませんよ。

讚美歌 393

祈り 聖なる神様、人々に手を差し伸べようとする時、妨げとなる恐れや障害を取り除いてください。人々に対してイエス様のようになれるよう助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

フロリダ州 タイタスヴィル / マイケル・オニール